

インターバンクの声（2017 年 10 月 26 日）

日経平均株価の連騰がついに前日までの 16 営業日で途切れた。それでもドル円は、東京市場が引けてしばらくすると 113 円台後半から勢いよく 114 円 20 銭台へ上昇、7/11 に付けた 114 円 49 銭を上抜ければ再びドル買いに勢いが付くとの期待も高まった。

ロンドン市場では一旦ドル買いが止まっていたが、ニューヨーク市場の序盤まで 114 円台を維持、後は 9 月の米耐久財受注や新築住宅販売の数字次第で再度ドル買いかと思われたが、結果は 113 円台後半への逆戻りだ。

耐久財受注は市場予想を上回り、新築住宅販売も 10 年ぶりの高水準で、それぞれ発表直後はドル買いに反応したものの、むしろ指標をきっかけに反落する格好になってしまった。

東京市場からのドル上昇は米長期金利の上昇に支えられていた部分が大きく、それが耐久財受注の発表前後から低下し始め、ニューヨーク・ダウも下落幅が拡大傾向にあったことで、ドル売りになるのは仕方がなかったのかも知れない。今日の東京市場では株価が気になるが、今晚開催される ECB 理事会が注目だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。